

2026年度日系社会研修（多文化共生推進/日系協力型）日系サポーター コース概要

No	1
所管センター	中部
分野	教育
研修コース名	外国にルーツを持つ子どものための日本語・母語教育研修
受入人数	1
受入時期	上半期
来日日	2026年5月13日（水）
帰国日	2027年2月20日（土）
提案団体	株式会社マキノハラボ
提案団体 ウェブサイトアドレス	https://makilabo.jp/
研修員必要資格	
研修員に必要な実務経験年数	実務経験1年以上
研修使用言語	日本語・ポルトガル語
日本語能力 （JLPT目安）	N3
ポルトガル語 スペイン語能力	ポルトガル語（母語）
研修目標	本研修の中で、外国にルーツのある児童生徒への日本語教育や母語（ポルトガル語）教育の基礎的な知識を学び、指導現場での指導方法を経験する。 地域住民や学校関係者との協働を通じて、多文化共生における地域連携の重要性を理解する。
期待される成果 （習得する技術）	・外国にルーツを持つ児童生徒への初級日本語の指導技術（会話・語彙・文法支援）が向上する。 ・外国にルーツを持つ児童生徒への母語指導の技術が向上する。 ・日本語及び母語指導にかかる教材活用法を理解する。 ・日本の公立学校における、外国にルーツを持つ児童生徒への支援体制の現状と課題を理解する。 ・外国籍住民と地域の日本人が交流する多文化イベントの企画・運営補助を通じて実務力を習得する。
研修計画（内容）	【講義】 日本の学校制度や外国籍児童の教育課題、多文化共生の基礎的な考え方について理解を深めるための講義を実施。内容は、①日本の義務教育制度と学校文化、②第二言語としての日本語習得の基本、③母語教育の意義と実践、④多文化共生施策と牧之原市の取組等。 【見学】 牧之原市内の小中学校や日本語初期支援教室「いっぽ」、地域の支援団体等を見学し、実際の支援現場や教育機関、地域の多文化共生施策の視察。 【実習】 いっぽでの日本語支援、ブラジル人児童へのポルトガル語による母語支援、地域の日本語教室「はじめての日本語教室」や多文化交流イベントの運営補助。 【実施報告】 児童生徒の日本語・ポルトガル語等の指導記録の報告。 研修の成果発表の実施
研修実施の背景／日本国内の中南米出身者のコミュニティにおける現状、多文化共生等課題解決を推進するにあたっての問題・現状等	静岡県牧之原市には、製造業を中心とした地域産業の就労先を背景に、長年にわたりブラジル人を中心とする中南米出身の住民が多数定住している。近年では家族単位での移住も一般化し、市内の公立小中学校には外国にルーツを持つ児童生徒が継続的に在籍しているが、その多くが日本語の理解が不十分なまま編入しており、学校生活や授業への適応に大きな困難を抱えている。 特に、日本語の「聞く・話す」以前に、母語であるポルトガル語の読み書きが定着していない児童も多く、学習言語としての日本語の習得に時間がかかる傾向がある。そのため、教科学習の理解にも影響が及び、「学びの土台」自体が不安定な状態にある。これは、SDGs目標4「質の高い教育をすべての人に」が掲げる、すべての学習者に包摂的で公平な教育を提供するという視点からも、解決が急がれる課題である。 弊社では、牧之原市教育委員会からの委託を受けて日本語初期支援教室「いっぽ」を運営しており、市内の公立学校へ編入学を希望する児童に対して、日本語や算数などの初期指導を行っている。しかし、支援が必要な児童生徒数に対して人的・制度的な体制が追いついておらず、公立学校の教職員が手探りで対応せざるを得ない状況も少なくない。 また、学校現場においては、外国籍児童生徒への指導方法が教員間で十分に共有されておらず、日本語を母語としない子どもたちへの対応が個人の経験に依存しているケースも多い。そのため支援の質にばらつきが生じやすく、持続的で効果的な支援モデルの構築が求められている。 一方、保護者も日本の学校制度やルールへの理解が乏しく、学校との関係形成に課題を抱えている。さらに、より高収入を求めて頻繁に転職・転居を繰り返すことで、子どもの学びが中断され、安定的な学習環境の確保が困難となっている。こうした背景には、SDGs目標10「人や国の不平等をなくそう」が示すように、言語や文化の違いによる教育・情報格差が未だに大きな課題として存在している。 地域社会においても、外国籍住民が同一の言語・文化圏で固まりやすく、日本人住民との交流や相互理解の機会が限られている。加えて、防災など命に関わる情報が十分に伝わらない現状もあり、災害時における情報格差や行動格差が、地域全体の安全に関わるリスクとなっている。 このように、教育・家庭・地域それぞれの場面で多層的な課題が複合的に存在しており、それらに対応できる人材の育成が急務である。本研修ではその第一歩として、言語教育、日本の学校文化の理解、地域との連携といった複数の観点から、実践的に学ぶ機会を提供することを目的としている。
本研修実施の意義 応募者への裨益効果	本研修では、研修員が学習支援クラスにて外国にルーツのある児童・生徒の日本語理解促進や学習指導のサポートを行う予定である。日本語で理解が困難な児童生徒に対しての母語による指導支援や、児童生徒の移住元の文化や生活様式を理解する者が身近にすることで、児童生徒の学習理解の促進と気持ちの安心感にも繋がる。 また、研修員は日本の教育システムや学習支援方法、また関係者の連携などを学び、必要なスキルを身に付けることで、母国での学習支援にそのノウハウを活用することが期待できる。さらに母国と日本との教育の違いについて教育関係者に対して報告を行い、児童生徒または保護者が持つ日本の教育に関する理解が難しい点を共有し、学校関係者の知識向上につなげたい。
期待される国内の中南米出身者のコミュニティへの貢献（活動）	日系サポーターが牧之原市で活動することにより、ブラジルを中心とした中南米出身の子どもたちが言語面・心理面で安心して学べる環境づくりに貢献する。特に母語と日本語の両面からの支援は、家庭との連携や子どもの学習定着に寄与する。
応募希望者への特記事項	特になし